2021.1.16 GEWANDHAUS 龍ヶ崎ゲヴァントハウス【オリジナルCDコンサート】

ニューイヤー名曲コンサート2021

プログラム

2021年最初のCDコンサートは、ニューイヤー名曲コンサートです。今年のウィーン・フィルのニューイヤーコンサートは新型コロナの影響で、無観客という歴史上初の試みで行われました。その中から巨匠ムーティの指揮で皇帝円舞曲をお聴きください。昨年は楽聖ベートーヴェンの生誕250年という節目の年でした。今年はサン=サーンス、ストラヴィンスキーといった大作曲家のアニヴァーサリーイヤーでもありますが、今日は生誕100年のピアソラと生誕200年のドップラーの作品を聴いていただきます。ピアソラはチェロの名手ヨーヨー・マが1997年に録音したアルバムの「リベル・タンゴ」がサントリーのCMで使われた事もあり大ヒット。以来クラシック演奏家が積極的に取り上げるようになりました。ガーシュインと合わせてお楽しみください。ヘンデルのハープ協奏曲、ワーグナーの「タンホイザー」序曲、シューマンの「ライン」も新年にふさわしい名曲です。

＊＊＊＊＊＊＊

ヨハン・シュトラウス二世（1825～1899）：
皇帝円舞曲op.437
リッカルド・ムーティ指揮ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団
（2021.1.1　ウィーン・ムジークフェラインザールでの生Live　～ニューイヤーコンサートより～）

ゲオルク・フリードリッヒ・ヘンデル（1685～1759）
ハープ協奏曲変ロ長調
吉野直子（hp）/小澤征爾指揮ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団
（1988.6.21　ベルリン・フィルハーモニーホールでのLive）

ジョージ・ガーシュイン（1898～1937）：
サマータイム（歌劇“ポーギーとベス”より）
私の彼氏（ミュージカル「レディー・ビー・グッド」より）
ジェシー・ノーマン（sop）/アンドレイ・ボレイコ指揮ベルリン・ドイツ交響楽団
（1998.7.4　ベルリン・フィルハーモニーホールでのLive）

リヒャルト・ワーグナー（1813～1883）：
歌劇“タンホイザー”序曲
マルチェッロ・ヴィオッティ指揮ザールブリュッケン放送交響楽団
（1995.5.5　ザールブリュッケン、コングレスハレ大ホールでのLive）

＊＊＊ 休 憩 ＊＊＊

アストル・ピアソラ（1921～1992）：【生誕100年に寄せて】
レビラード（2台のピアノ編曲版）
カリン・レヒナー（P）/セルジオ・ダニエル・ティエンポ（P）
オブリビオン（忘却）
ドーラ・シュヴァルツベルク（Vn）/ホルヘ・ボッソ（Vc）/チエロ・アンサンブル
（2003.6.23　ルガーノ・フェスティバルでのLive　CD盤）

フランツ・ドップラー（1821～1883）：【生誕200年に寄せて】
ハンガリー田園幻想曲op.26
ジェームズ・ゴールウェイ（fl）/外山雄三指揮NHK交響楽団
（1976.5.28　NHKホールでのLive）

ロベルト・シューマン（1810～1856）：
交響曲第３番変ホ長調“ライン”op.87 ～ 第1楽章、第2楽章、第4楽章、第5楽章
カルロ・マリア・ジュリーニ指揮ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団
（1990.5.27　ウィーン・ムジークフェラインザールでのでのLive）

★ホームページアドレス　http://gewandhaus.sakura.ne.jp/wp/

曲　目　解　説

ヨハン・シュトラウス２世：皇帝円舞曲作品437

1889年ベルリンに新しいコンサートホールが誕生、10月19日からの「こけら落とし演奏会」のために作曲を依頼されたシュトラウスが「手に手をとって」という題名で発表した作品で、演奏会にはドイツ皇帝ヴィルヘルム2世とオーストリア皇帝フランツ・ヨーゼフ1世が臨席予定だったためドイツ、オーストリア両国の親善を祝う意味が込められていました。しかし出版の際に出版社側からの強い要望で今日の「皇帝円舞曲」に改名されました。チェロ独奏を含んだ長大な前奏を持ち、その名にふさわしい堂々たる風格とスケールを持った名曲です。

ヘンデル：ハープ協奏曲変ロ長調

1736年2月19日にオラトリオ「アレキサンダーの饗宴」が初演された折りに同時に初演された作品で、作品の間を持たせるために計4曲、幕間用に3曲が演奏され、このハープ協奏曲は第1部の中に組み込まれて演奏されました。もともと「ハープまたはハープシコード、またはオルガンのための」と記されており、オルガン協奏曲第6番としても残されていますが、今日ではハープ協奏曲として最も知られており、ハープのための協奏曲としては歴史上最初の作品です。ハープの音色にふさわしい優雅さと透明感のある美しさに魅了される名曲です。

第１楽章　アンダンテ・アレグロ　　第２楽章　ラルゲット　　第３楽章　アレグロ・モデラート

ガーシュイン：サマータイム（歌劇「ポーギーとベス」より）

ガーシュイン：私の彼氏（ミュージカル「レディー・ビー・グッド」より）

ジョージ・ガーシュインは1898年貧しいユダヤ系ロシア移民だった父のもと、ニューヨーク州ブルックリンで生まれました。12歳の時兄が習い始めたピアノに異常な興味を持ち、13歳からピアノと和声を学ぶうちにポピュラー・ソングに強く惹かれ、楽譜出版社の店頭ピアニストとして働きながら歌曲の作曲を始めました。17歳の時に最初の曲が出版。19歳の時から歌手の伴奏を勤めるうちに歌の作曲依頼が多くなり、次第に売れっ子になって行きました。1924年バンド・リーダー、ポール・ホワイトマンからピアノ・コンチェルトの依頼を受けて作曲した「ラプソディ・イン・ブルー」が好評を得て、その後管弦楽法を学びピアノ協奏曲ヘ調や「パリのアメリカ人」等の名曲を生んで行きます。これらはシンフォニック・ジャズと呼ばれますが、1932年頃から彼の野心はオペラへと向かいます。ニグロの生活や音楽を研究し、1935年ヘイワード夫妻の戯曲「ポーギー」を基に書き上げたのが、3幕のオペラ**「ポーギーとベス」**です。舞台は漁師たちの貧民街。足の不自由なポーギーが麻薬中毒の娼婦ベスを救ったことから起こる出来事をジャズや黒人霊歌を取り入れた歌と独特のリズムで描いた刺激的なオペラです。**サマータイム**は冒頭で漁に出た夫を思いながら赤ん坊を抱いた母親が歌う子守歌で、ジャズのスタンダードナンバーにもなっている名曲です。**私の彼氏**は兄のアイラ・ガーシュインの作詞で1924年のミュージカル**「レディー・ビー・グッド」**のために書いた曲ですが、結局ミュージカルでは使われず、単独で歌われて大ヒットした作品です。

ワーグナー：歌劇「タンホイザー」序曲

1844年ワーグナーが6番目に完成させたオペラで、官能的な悦楽の世界とキリスト教的な禁欲の世界という両極の間で苦悩するタンホイザーの姿を通して、愛の根本を掘り下げた作品で、最後は恋人エリザベートの自己犠牲によって魂が救済されます。殿堂のアリア、巡礼の合唱、夕星の歌など多くの名曲を含んでいますが、序曲はおごそかな救済のテーマとなる巡礼の音楽で始まり、バッカナール（饗宴）のモチーフを経て再び救済の音楽となって堂々たるクライマックスを築き上げます。単独でもたびたび演奏会で取り上げられる名曲です。

ピアソラ：レビラード（2台のピアノ編）

ピアソラ：オブリビオン（忘却）

今年**生誕100年**を迎える**アストル・ピアソラ**はイタリア移民3世の父のもと、アルゼンチンのマル・デル・プラタデ生まれました。4歳から15歳までニューヨークに移住、バンドネオンを学びはじめ、1939年タンゴのトロイロ楽団に参加、バンドネオン奏者として名声を得て行きました。その間ヒナステラに師事して音楽理論を学び、1954年にはフランスに渡ってナディア・ブーランジェからクラシック作曲家としての教えを受けますが、彼女から「タンゴこそが貴方の音楽の原点である」と指摘され、タンゴ音楽の可能性に目覚め、タンゴを原点にジャズやクラシックの要素を融合させた独自の音楽形態を生み出しました。1963年に作曲された**レビラード**は初めて五重奏団を結成して活動の場を拡げていた頃の作品で、リズミカルな熱狂的部分を挟んで、中間部にメロディックな部分を配置した小品です。**オブリビオン**は1984年のイタリア映画「エンリコ4世」のために5曲書き下ろした内の1曲で、カンツォーネ歌手ミルバがフランス語の歌詞を付けて歌い大ヒット。今日ではピアソラの名曲のひとつとして様々な編曲で演奏されています。

ドップラー：ハンガリー田園幻想曲作品26

今年**生誕200年**を迎えるオーストリア生まれの**アルベルト・フランツ・ドップラー**はオーボエ奏者の父からフルートを学び、18歳でブダペスト歌劇場の首席フルート奏者に就任。その後ウィーン宮廷歌劇場の首席フルート奏者を経て指揮者としても活躍しました。7曲のオペラ、15曲のバレエ音楽、フルートのための作品を数多く残しましたが、**ハンガリー田園幻想曲**はドップラーの代表作としてよく知られています。ブダペスト歌劇場の首席フルート奏者を勤めていた若い頃の作品と言われていますが、東洋的な情緒とジプシーのチャールダーシュの様式を取り入れた華やかさを持ち合わせた名曲です。

シューマン：交響曲第３番変ホ長調「ライン」作品87

1850年、ドレスデンからライン川の流れに沿ったデュッセルドルフ市の楽長として着任した40歳の頃に作曲されました。作曲年順ではシューマン最後の交響曲です。この頃の精神病状は決して良くなかったにも関わらず、この地方の豊かさに感銘を受けたシューマンは、明るい響きと詩情豊かな美しさ、そして生き生きとした力強い喜びに溢れた傑作を生み出しました。

第１楽章　生き生きと　　第２楽章　スケルツォ．きわめて中庸に　　第３楽章　速くなく
第４楽章　壮麗に　　第５楽章　生き生きと